

2014 年度 家族・地域支援セミナー

「地域包括ケアをどう作るか—柏モデルから考える」

2014 年 7 月 11 日 18 時～20 時
小平市「ルネ小平」大ホール) 報告

第一部 18 時～18 時 50 分

基調講演 辻哲夫・東京大学高齢社会
総合研究機構教授

「柏モデルをどう作ってきたのか」

第二部 18 時 55 分～20 時

シンポジウム「地域包括ケアの課題を考
える」

新田國夫(日本臨床倫理学会会長, 在宅
療養支援診療所全国連絡会会長)

辻哲夫・東京大学高齢社会総合研究機構
特任教授

コーディネーター・山路憲夫白梅学園大
学教授

増え続ける要介護や認知症の高齢者をどう地域で支えていくのか。団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年までに、市町村で地域包括ケア体制を構築することを目指し、改正介護保険法に基づき、2015 年度からようやく市町村で地域包括ケア計画の具体化が始まったが、市町村の動きを見ると、市町村によって取り組みの差が大きい。それは地域包括ケアの柱となる介護予防、日常生活支援総合事業、医療と介護の連携、生活支援事業といった取り組みは、どの市町村も経験したことがない新たな地域支援事業として作り上げなければならないと同時に、地域の医療・介護の専門職、NPO やボランティアなど住民との協働も求められるからである。

そのモデルを千葉県柏市で豊四季台地域を中心

に、東京大学高齢社会総合研究機構、柏市、UR の三者が作りあげてきた事例から学ぼうと、同プロジェクトの中心である辻哲夫・東京大学高齢社会総合研究機構教授による基調講演「柏モデルをどう作ってきたのか」、さらに第二部でのシンポジウム「地域包括ケアの課題を考える」で新田國夫(日本臨床倫理学会会長, 在宅療養支援診療所全国連絡会会長)も加わり、辻哲夫・東京大学高齢社会総合研究機構教授、コーディネーター・山路憲夫白梅学園大学教授の三者で地域包括ケアづくりの課題を論じた。

元・厚生労働省事務次官の辻教授は、介護保険の創設、医療制度改革に関わってきた自身のライフワークとしての医療・介護さらに福祉、住まいを統合させる地域包括ケアの実現の重要性を改めて強調。その実現のために在宅医療を担う地域の医師の研修、関連の多職種も加わった研修と連携、さらに住民を対象とした説明会の開催により、地域を支える民生委員、社会福祉協議会、自治会・町内会も加わった地域の支えあいづくり、それによる介護予防や生活支援の取り組み、生きたい就労といった多角的な地域ぐるみの取り組みを紹介した。

第二部のシンポジウムでは、在宅医療に取り組む地域の医師が少ない現実をどう変えていけるのか、医療と介護の連携のポイント、さらに市町村行政のばらつきが大きい中で、行政の取り組みをどう進めていくのか、行政関係者も加わって、具体的、

現実的な議論となった。

このテーマの関心の高さから、同セミナーには行政の関係者、専門職、市民ら 300 人近い参加者があった。

ただ、時間的な制約もあり、多岐にわたる地域包括ケアの論点を掘り下げきれない点多々残されたが、問題提起として、いくつかの課題を現実的歴史的な観点からある程度出せたことは評価されよう。「柏プロジェクト」の取り組みは、大学が加わることによって、学術的な知見を提示しつつ、研修プログラムの作成と研修の実践、行政だ

けでなく専門職や専門団体、住民も巻き込むことができる役割を果たし得ることを示したものであり、今後ますます重要になってくる大学の地域貢献のあり方にも資する取り組みとして受け止めた。

(山路憲夫)